



1-1, こげ茶色の帽子の少女 1970年代前半

戦後最大のベストセラーとなり、今も世界中で読み継がれている黒柳徹子(ちひろ美術館館長)の自伝的物語『窓ぎわのトットちゃん』(1981年、講談社)。小学校を1年生で退学になったトットちゃん(黒柳徹子)が新たに入学したトモエ学園では、戦時下にも関わらず、小林宗作校長のもと、ひとりひとりの個性と可能性を大切にする教育が行われていました。

本書の絵を描いたいわさきちひろは、子どものしあわせと平和を願い、生涯子どもを描き続けた画家です。黒柳が飾らないことばでつづるトモエ学園での日々と、ちひろが描くいきいきとした子どもたちの絵が織りなす『窓ぎわのトットちゃん』の世界は、今なお共感と憧れをもって読者の心に響きます。

2021年に、トモエ学園の精神を未来につなぐ「トットちゃん広場」(松川村村営)はオープン5周年、『窓ぎわのトットちゃん』は刊行40周年を迎えます。どんな時代、どんな場所にあっても、子どもたちがのびのびと健やかに過ごせる未来を願い、あらためて本書の魅力をご紹介します。

トットちゃん広場5周年

『窓ぎわのトットちゃん』展

2021年6月5日(土)～9月5日(日)

トモエ学園は、^{やすあき}泰明ちゃんとか、高橋君みたいに、体に障害をもっている子が、何人もいたけど、校長先生は、「助けてあげなさい。」とは、一度もおっしゃらなかった。

いつも、「みんな、いっしょだよ。
いっしょにやるんだよ。」とだけ、だった。
だから、トットちゃんたちは、
なんでもいっしょにやった。

黒柳徹子 『絵本 窓ぎわのトットちゃん2』(講談社) 2014年より



1-2, ランドセルをしょって並んで歩く1年生 1966年

展覧会名 トットちゃん広場5周年 『窓ぎわのトットちゃん』展

会期 2021年6月5日(土)～9月5日(日)
※会期は予告なく変更になる場合があります
○開館時間=10:00～17:00 ○休館日=水曜日

会場 安曇野ちひろ美術館 展示室1・2

料金 大人900円/高校生以下無料
団体(有料入館者20名以上)、65歳以上、学生の方は700円/障害者手帳ご提示の方とその介添えの方(1名)は無料/年間パスポート3000円

主催 ちひろ美術館
協賛 株式会社ジャクエツ
協力 講談社

展覧会の見どころ 戦後最大のベストセラー！『窓ぎわのトットちゃん』の魅力

『窓ぎわのトットちゃん』は、全世界で累計2371万部が発行され、時代を超え、国境を超えて、今なお愛されています。本展では、雑誌や単行本、絵本に収録されたちひろの絵に加え、当時の写真や資料を交えながら、本書のエピソードやトモエ学園で行われていたユニークな教育についてご紹介します。



1-3、教室の席に座る子ども 1966年

トモエ学園があった時代、『窓ぎわのトットちゃん』が読まれた時代

子どもの個性を伸ばす理想の教育を目指し、小林宗作校長がつくったトモエ学園。黒柳徹子がそこでのいきいきとした日々を記した『窓ぎわのトットちゃん』は、大きな反響をもって人々に受け入れられました。ふたつの時代を振り返りながら、トモエ学園に小林校長先生が込めた思い、そして黒柳が『窓ぎわのトットちゃん』に込めた思いを探ります。

黒柳徹子といわさきちひろ、子どものしあわせを願うふたりの想い

ユニセフ親善大使として世界各国を訪れている黒柳徹子と、子どものしあわせと平和を願い、生涯子どもを描き続けたいわさきちひろ。生前の面識はありませんでしたが、同じ思いをもつふたりが、もし出会っていたらどんな会話をしたでしょう？本展では、ちひろのこぼれ話、黒柳がちひろへ送ったこぼれ話を紹介します。響きあう感性をもつふたりの世界をお楽しみください。

出展作品数 約 60 点

主な出展作品 こげ茶色の帽子の少女 1970年代前半/ランドセルをしょって並んで歩く一年生 1966年/ピンクのセーターを着た少女 1970年/後ろ姿のおさげ髪の少女 1970年/絵本『ことりのくるひ』(至光社) 1971年 ほか

図版について 本リリリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。

ご希望の方は、別紙「プレス用作品画像データ借用・誓約書」をご覧ください。

※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。 ※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。

※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。 ※掲載紙/誌をご送付ください。



1-4、ピンクのセーターを着た少女 1970年



1-5、バラと少女 1966年



1-6、「このあし たん」 1969年



1-7、ねぎぼうずと妻と子どもたち 1960年代半ば

<企画展> 現代の町絵師 笑いと反骨の画家 田島征彦展
2021年6月5日(土)～9月5日(日)



2-1, 『祇園祭』(童心社)より 2016年



2-2, 『祇園祭』(童心社)より 2016年

自然と人と汗と涙と

田島征彦は、型絵染という技法を長年の間用いて活躍している画家です。81歳になる現在も、絵本をはじめ、版画やタブローも精力的に制作し続けています。ユーモラスかつ鋭い視点で、魂と時間を込めてつくられた作品の数々は、私たちを魅了します。

本展では、田島の絵本デビュー作である『祇園祭』を起点とし、代表作であり、落語を題材にした抱腹絶倒の『じごくのそうべえ』や、15年かけて制作した『てんにのぼったなまず』、現代の社会に生きる子どもたちに視点をあてた『ふしぎなともだち』、『やんばるの少年』までの絵本原画を紹介します。

また、祇園祭をテーマにしてつくられた型絵染による布の大型インスタレーションや屏風なども展示します。ジャンルを超え、時代を超え、描き続ける現代の町絵師、田島征彦の作品をとくにご覧ください。

展覧会名 <企画展> 現代の町絵師 笑いと反骨の画家 田島征彦展

会期 2021年6月5日(土)～9月5日(日) ※会期は予告なく変更になる場合があります
○開館時間=10:00～17:00 ○休館日=水曜日

会場 安曇野ちひろ美術館 展示室4

料金 大人900円/高校生以下無料
団体(有料入館者20名以上)、65歳以上、学生の方は700円/障害者手帳ご提示の方とその介添えの方(1名)は無料/年間パスポート3000円

主催 ちひろ美術館

協賛 株式会社ジャクエツ

協力 大阪府教育庁、茨木市立図書館、童心社、くもん出版

展覧会の見どころ 『じごくのそうべえ』を描いた画家 田島征彦

子どものときに絵本『じごくのそうべえ』に出会い、その型破りでユーモラスな世界のとりこになった人は少なくないでしょう。この絵本をつくったのが田島征彦です。1978年の出版以来ロングセラーとなっているこの絵本の原画と資料を紹介します。

型絵染は、手間暇かかる

田島の絵本の多くは、絵を描くだけでなく、彫って、布を染めて、洗って、乾かして、という時間も労力もかかる、型絵染という技法で制作されています。本展では、その田島の技法についても注目し、型絵染で制作された大型のインスタレーションも展示します。

自然と人を愛して描いて

絵本デビュー『祇園祭』から、近年の『やんばるの少年』まで、田島の作品には人間の日々の営みへの共感や自然への敬意、そして、これらを力づくで抑え破壊しようとするものへの怒りがユーモアを交えて表現されています。笑いと言反骨の画家、田島の力作の数々をご堪能ください。



2-3, 『じごくのそうべえ』(童心社)より 大阪府教育庁蔵 1978年



蘇民将来由来—牛頭天王と巨旦長者 個人蔵 2012年

出展作品数 約70点

主な出展作品 『祇園祭』(童心社) 1976年／『じごくのそうべえ』(童心社) 1978年／『てんにのぼったなまず』(福音館書店初版、復刊ドットコム) 1985年／『ふしぎなともだち』(くもん出版) 2014年／『やんばるの少年』(童心社) 2019年 ほか

作家プロフィール



田島征彦(たじまゆきひこ 1940年～)

1940年大阪府堺市生まれ。高知県で少年時代を過ごす。京都市立美術大学染織図案科卒業。1976年『祇園祭』(童心社、第6回ブラティスラヴァ世界絵本原画展(BIB) 金牌受賞)が最初の絵本。ほかにも『じごくのそうべえ』『てつぼうをもったキジムナー』(以上童心社)、『てんにのぼったなまず』(復刊ドットコム、第11回BIB 金牌受賞)『ふしぎなともだち』(くもん出版、第20回日本絵本賞大賞受賞)など。35年の画業をまとめた自伝的画集『慥染記』(染織と生活社)を1995年に刊行。現在淡路市在住。

図版について 本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。ご希望の方は、別紙「プレス用作品画像データ借用・誓約書」をご覧ください。



2-4, 『ふしぎなともだち』(くもん出版)より 2014年



2-5, 『やんばるの少年』(童心社)より 個人蔵 2019年

ちひろ美術館コレクション 子どもの時間

2021年6月5日(土)～9月5日(日)

野原を走りまわったり、想像の世界のなかで不思議なものに出会ったり、仲間とともに語り合ったり……。子どもの時間はさまざまなあそびや未知の冒険などであふれており、そこには国境はありません。本展では、ちひろ美術館のコレクションから、世界の画家たちの絵本に描かれた、「子どもの時間」を紹介します。私たちの知らない国のお話であっても、どこか、親しみを感じられるのは、人はだれでも子どもの時間をとってきたからでしょうか。作品のなかの子どもの時間へタイムスリップ！



3-1, 初山滋 (日本) 『こども風土記』より 1941年

展覧会の見どころ 新規収蔵作品 初公開！ 初山滋『こども風土記』原画

民俗学者の柳田國男が新聞に連載した『こども風土記』が、1942年に出版されました。そこには、日本各地で取材した子どもの素朴なあそびやその背景がつつられています。流麗な線に初山らしさの表れた貴重な絵を初めて展示します。

あそぶ子どもたち

こどもはあそびの天才。自然のなかで、あるいは家のなかで、自由に空想と現実の境を超えるようすは、国境も超えて共通しているようです。子どものあそびに注目してみましょう。

子どもだって……

子どもも一人の人間。複雑な感情をもち、ときには大人以上に深く悩んだり、静かに休んだりするのです。そのような子どもの側面を描いた作品も紹介します。

出展作品数 約20点

主な出展作品 初山滋(日本) 『こども風土記』より 1941年/バク・チョルミン(韓国) 『怪物を捕りにいきたい』より 2004-2005年/クラウス・エンヅィカート(ドイツ) 『4人の子ども、世界をまわる』より 1990-1992年/アーノルド・ローベル(アメリカ) 『トット・ポットと笛』より 1970年頃/マーロン・クエリナド(パプアニューギニア) 『原生林で育て』より 1999年



3-2, バク・チョルミン(韓国) 『怪物を捕りにいきたい』より 2004-2005年



3-3, クラウス・エンヅィカート(ドイツ) 『4人の子ども、世界をまわる』より 1990-1992年



3-4, 八島太郎(アメリカ) 『あまがさ』のイメージ 1965年

展覧会名 ちひろ美術館コレクション 子どもの時間

会期 2021年6月5日(土)～9月5日(日)
※会期は予告なく変更になる場合があります
○開館時間=10:00～17:00 ○休館日=水曜日

会場 安曇野ちひろ美術館 展示室3

料金 大人900円/高校生以下無料
団体(有料入館者20名以上)、65歳以上、学生の方は700円/障害者手帳ご提示の方とその介添えの方(1名)は無料/年間パスポート3000円

主催 ちひろ美術館
協賛 株式会社ジャクエツ

トットちゃん広場5周年イベント

Vol.1 青空トモ工学園 田んぼの教室

松川村の田んぼの先生に教わりながら、無農薬でお米を育て、秋には、収穫した新米をはんごうすいさんで味わうイベントです。

第1回 田植え 5月30日(日)

第2回 稲刈り&はぜかけ 9月19日(日)

第3回 はんごうすいさんとりんご狩り 10月10日(日)

Vol.2 トットちゃん広場5周年 みんなの夢プロジェクト

トットちゃん広場5周年『窓ぎわのトットちゃん』展にあわせて、松川村の子どもたちと来館者、それぞれの夢を書いた“にじみのオーナメント”を展示します。先行きの見えない時代だからこそ、みんなでいっしょに夢を描きませんか？

※会場を彩るカラフルな“にじみのオーナメント”は、いわさきちひろの水彩技法のひとつである“にじみ技法”を用いて松川村の中学生や子どもたち、有志のみなさんが制作します。

メッセージ募集&展示期間：6月5日(土)～9月5日(日)

会場：安曇野ちひろ美術館 参加費：無料(入館料別) 休館日：水曜日

安曇野ちひろ公園・トットちゃん広場 参加費：無料 休園日：水曜日(7/20～8/31無休)

Vol.3 7月23日(金)課外学習ゾーン「青空教室」OPEN!

はんごうすいさんや野菜の収穫&ベジベキューを体験できる野外学習ゾーンがオープンします。

Vol.4 7月24日(土)トットちゃんの夏祭り・5周年祭

トットちゃん広場5周年をお祝いする“トットちゃんの夏祭り”を行います。親子で楽しめるイベントやマルシェの開催も予定しています。

Vol.5 8月8日(日)トットちゃん広場 平和のガーデンコンサート

ちひろ忌にあわせて、みんなで平和を願うガーデンコンサートを開催します。

Vol.6 8月21日(土)トットちゃんの肝だめし

トットちゃんも大好きだった肝だめし。一夜限りのちょっと怖い夜の安曇野ちひろ公園をお楽しみください。

※新型コロナウイルスの感染拡大の状況や雨天・天候不良の場合は中止させていただくこともあります。

※イベントの最新情報は、安曇野ちひろ公園までお問い合わせください。TEL.0261-85-8822

※最新情報は安曇野ちひろ公園公式サイトをご覧ください。chihiro-park.org



●『窓ぎわのトットちゃん』展関連書籍 オーディオブック『窓ぎわのトットちゃん』



著者・朗読：黒柳徹子
再生時間：1時間56分
購入先：Audible, audiobook など
価格：本体1650円

講談社

戦後最大のベストセラーとなった黒柳徹子の自伝的物語『窓ぎわのトットちゃん』がオーディオブックになりました。「絵本をじょうずに読んであげられるお母さんになりたい」と、NHK放送劇団を志望した黒柳自身による、貴重な朗読です。本編61編中、30編を収録。



●田島征彦展関連企画 田島征彦、自作を語る

6月5日(土) 14:00～15:30

会場：松川村・すずの音ホール(長野県北安曇郡松川村板取84-1)

参加費：500円 定員：100名 共催：松川村図書館

申し込み：要事前予約(安曇野ちひろ美術館公式サイト、TEL.にて)

絵本画家・田島征彦さんが制作秘話や絵本に対する思いについて語るトークイベントを開催します。また、落語を題材にした絵本『じごくのそうべえ』や展示予定の絵本のよみ語りも行います。



『じごくのそうべえ』(童心社)より 大阪府教育庁蔵 1978年

上記のイベントおよび開館情報、会期、展示名は予告なく変更になる可能性があります。

最新情報につきましては、公式サイトをご覧ください。お電話にてお問い合わせください。みなさまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。